

4 . 流域の社会状況

4-1 人 口

流域内は、門別町の一部、平取町、日高町の3町で構成され、流域面積は1,350 km²である。

流域の中心集落は沙流川本流(国道237号)沿いに立地し、このうち下流部門別町富川市街が流域内では最も大きな規模を有し、また日高西部一円の拠点ともなっている。

表4-1 (平成7年10月1日現在)

区 分	3町合計	日高町	平取町	門別町	流域内*
面 積 (km ²)	1,736	564	743	429	1,350
総人口(人)	23,439	2,653	6,883	13,903	16,025
世 帯 数	9,217	1,209	2,562	5,446	-
人口密度(人/km ²)	13.5	4.7	9.3	32.4	11.9

* : 流域内は河川現況調査(基準年 平成2年度末)による
出典: 北海道市町村勢要覧 平成9年(国勢調査)

4-2 土地利用

沙流川流域土地利用の特徴は、その地形条件を反映して山林の占める割合が非常に高いことである。

平野部の主な利用は、平取町においては、田、畑、門別町では、田畑のほか牧場に利用されている。

表4-2 (単位: km²)

	田	畑	宅 地	池 沼	山 林	牧 場	原 野	雑種地	その他
日高町	3.65	3.60	1.02	0.10	541.91	2.46	2.58	2.49	6.12
平取町	20.36	21.57	2.73	0.02	609.95	7.63	29.20	5.13	46.59
門別町	13.46	51.51	6.23	-	267.82	37.69	5.44	4.20	42.36

出典: 北海道市町村勢要覧(H9)より

表 4-3 沙流川流域土地利用状況変遷

	山 地	耕 地	市街地	その他
昭和37年	91.6%	3.8%	0.0%	4.6%
昭和43年	91.6%	4.5%	0.0%	3.9%
昭和50年	86.8%	5.7%	0.0%	7.5%
昭和60年	86.5%	5.2%	0.0%	8.3%
平成2年	87.9%	5.4%	0.0%	6.7%

出典: 河川現況調査

4-3 産業経済

生産額の推移は、農業粗生産額では、平成7年で約186億円と昭和60年に対し13%の伸びを示し、製造品出荷額では約204億円で昭和60年に対し32%伸びている。

門別町の漁業は約8億円と昭和60年に対し29%減となっている。

なお日高支庁管内の軽種馬生産は、全国生産の頭数の約80%を占めている。

表4-4 (単位：人、%)

	日高町		平取町		門別町		3町合計	
	人口	比率	人口	比率	人口	比率	人口	比率
一次産業	219	14	1,261	34	2,723	36	4,203	33
二次産業	433	27	826	22	1,464	19	2,723	21
三次産業	923	59	1,610	44	3,431	45	5,964	46

出典：北海道市町村勢要覧(H9)より

表4-5 単位：百万円)

	昭和60年	平成7年
農業粗生産額	16,446	18,557
製造品出荷額	15,425	20,399
漁獲高	1,101	786

出典：北海道市町村勢要覧より

4-4 交 通

沙流川流域内には、国道3路線（235号、237号、274号）が走り、道央、道東、道南を結ぶ幹線機能を有している。特に、道央札幌、千歳、苫小牧と道東十勝地区との連絡ルートとして重要で、産業流通および生活交通ルートとして利用されている。

また、高規格幹線自動車網を構成する日高自動車道の整備が進められ、平成10年までに一部開通しており、今後流域を横断することから地域の発展が期待される。

一方、鉄道については苫小牧～門別～様似町を結ぶJR日高本線がほぼ海岸沿いに走り、幹線である室蘭本線と接続している。

図4-1

